

2、3面 【特集】第52回 全国造園デザインコンクール
審査講評 入江彰昭審査委員長ほか
入選作品 国土交通大臣賞 櫻井心捺さんほか

4面 UR都市機構と技術意見交換会
現場代理人の抱える課題など説明

【ふるさと自慢】 邪馬台国への道 伊都の国、糸島へ
福岡県支部 小笹 雅也 (安藤造園土木(株))

【緑滴】 これからの北海道を盛り上げるのは、女子バレーボールだ！
北海道支部 岩見 花 (株)横山造園)

日造協 ニュース

2026.3月 通巻第624号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 http://www.jalc.or.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

第52回 全国造園デザインコンクール

文部科学大臣賞 神奈川県立相原高等学校
国土交通大臣賞 櫻井心捺さん(神奈川県立相原高等学校)



受賞者と関係者で記念撮影

日造協は、第52回全国造園デザインコンクールの表彰式を2月21日(土)、東京都千代田区二番町の東京グリーンパレスで開催した。全国造園デザインコンクールは、造園空間のデザインと設計技術の向上を図ることを目的に日造協主催、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会共催、文部科学省、国土交通省、NHK、全国農業高等学校長協会、(公社)日本造園学会、(公財)都市緑化機構の後援で実施している。

第52回全国造園デザインコンクール受賞者

賞部門	氏名	学校名	学年
文部科学大臣賞	神奈川県立相原高等学校		
国土交通大臣賞	櫻井心捺	神奈川県立相原高等学校	3
造園学会賞	二宮恵美香	群馬県立藤岡北高等学校	3
日造協会賞	野々村光翔	京都府立農芸高等学校	3
CLA会長賞	木田琴奈	豊田工業高等専門学校	4
学校長理事賞	堀口拳征	埼玉県立秩父農工科学高等学校	3
広場プラン賞	桐畑一希	京都府立農芸高等学校	1
入選	安齊弦太	群馬県立勢多農林高等学校	3
入選	今井楓子	群馬県立勢多農林高等学校	1
入選	櫻田芽生	神奈川県立相原高等学校	3
入選	橋谷ほのか	群馬県立藤岡北高等学校	3
入選	佐藤澄海	国立明石工業高等専門学校	3
入選	堀玲那	愛知県立豊橋工科高等学校	3
入選	高橋柚衣	群馬県立藤岡北高等学校	3
入選	阿部直立	三重県立四日市農芸高等学校	3
入選	長瀬琉生	北海道岩見沢農業高等学校	3
入選	川井稜資	京都府立農芸高等学校	2
入選	反町恵永	神奈川県立相原高等学校	2
入選	浅部あゆみ	岡山県立興陽高等学校(教諭)	
入選	中村華菜菜	大阪公立大学大学院	1
入選	村上凜夏	神戸大学	3
入選	宮崎優	京都大学	4
入選	鷗飼莉里	西日本短期大学	2
佳作	坂口唯衣	群馬県立藤岡北高等学校	1
佳作	柴田紘輝	愛知県立猿投農林高等学校	3
佳作	中川蒼大	滋賀県立八日市南高等学校	2
佳作	眞名子柊斗	愛知県立猿投農林高等学校	3
佳作	金谷颯稀	群馬県立勢多農林高等学校	3
佳作	小山雅臣	兵庫県立尼崎工業高等学校	3
佳作	高橋湧	埼玉県立杉戸農業高等学校	3
佳作	滝口あかり	群馬県立藤岡北高等学校	2
佳作	三田絵美喜	埼玉県立熊谷工業高等学校	3
佳作	本田悠友	群馬県立勢多農林高等学校	3
佳作	貝沼優奈	山形県立村山産業高等学校	3
佳作	高橋七星	京都府立農芸高等学校	3
佳作	山中陽菜実	神奈川県立相原高等学校	3
佳作	今井楓子	群馬県立勢多農林高等学校	1
佳作	降矢結衣	神奈川県立相原高等学校	2
佳作	皆川夢唯	神奈川県立中央農芸高等学校	2
佳作	齋藤彩人	テクノ・ホルティ園芸専門学校	1
佳作	今村莉子	明治大学	3
佳作	北口友暉	大阪工業大学	4
佳作	須藤一樹	京都芸術大学	3
佳作	前田有紀	長崎大学	3
佳作	田中碧乃	近畿大学大学院	1
佳作	沖野生樹	西日本短期大学	2



吉田幸人調査官 望月一彦室長 入江彰昭委員長

第52回全国造園デザインコンクールは、高校46校、大学23校、一般3名から総数627点の応募があった。

「住宅庭園部門」に大学・一般25、高校134、「街区公園部門」に大学・一般66、高校81、「商業施設部門」に大学・一般7、高校13、「実習作品部門」に大学4、高校24、緑化フェア「みどりの広場」プラン部門に273(高校のみ)の応募作品から、入選22点、佳作23点が選ばれた。

表彰式は2月21日(土)東京グリーンパレスにて開催した。

表彰式では冒頭、主催者より和田新也日造協会長があいさつ。受賞者へのお祝いとともに指導された先生方や関係者への感謝、今後のコンクールの発展と社会への貢献に向けた期待を述べた。

次いで、吉田幸人文部科学省初等中等教育局 産業教育振興室教科調査官、望月一彦国土交通省 都市局公園緑地・景



樹林

(一社)日本造園建設業協会理事
花佐造園(株)代表取締役会長 中島 祥之



「大阪・関西万博」が終わって今後の課題 今の建設業界の現状について

昨年関西では、「1970年日本万国博覧会(大阪万博 EXPO'70)」、「1990年国際花と緑の博覧会(花の万博 EXPO'90)」に続いて三回目となる「2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が開催され、累計来場者数が2900万を超えるなど成功裏に終了しました。

関西ではオフィシャルストアがまだ営業していて大阪・関西万博の余韻が残っています。

こうした博覧会の成功の陰で、外国政府のパビリオンの建設の工事費未払いという大変残念な問題が発生し、現在も未解決のまま、解決の兆しすら見えない状態です。

建設業法上、公共工事はすべての工事において、民間工事はある一定基準以上の工事時において、受注者に施工体制台帳作成の義務があります。

施工体制台帳の作成においては、元請が下請に工事を発注するにあたり、建設業の許可、契約書の有無等最低限の確認事項があります。

問題となった工事に日本の建設業法がどこまで及ぶのかわかりませんが、もし、施工体制台帳が作成されていたならば、このような不幸な問題は発生していなかったのではないかと思います。

また、これらの工事では、口頭による変更指示、契約書が交わされないままでの追加工事、工事費の天引き等いろいろな問題が指摘されています。

工事の実施が、どの様にされていたかは当事者でないとわかりませんが、少なくとも契約書の作成をはじめ、建設業関係法令に規定された事項に準じて工事が行われていたならば、防ぐことができたのではないかと考えます。

国土交通省は平成7年から一定基準の工事については施工体制台帳の作成を義務付けています。また、当初、変更にかかわらず、書面での契約が建設業法に規定されています。さらには昨年12月に完全施行された改正建設業法では、労務費の基準が作成され、著しく低い労務費での契約に対し、注文者、受注者ともに勧告の対象となりました。

ルールを守ることは、業界及び会社の発展、従業員や従業員の家族の生活を守ることです。

2025年はいろいろと考えさせられる1年でした。

2027年には、「2027年国際園芸博覧会(GREEN × EXPO2027)」が横浜で開催されます。

この博覧会を成功させる為には、少なくとも我々造園業界において今回のような問題を発生させない努力は必要ではないでしょうか？

今後の造園業界がこれからも人々の心と暮らしを豊かにし、未来を形づくる存在であり続けるために、会員皆様の今以上一層の努力が必要と考える次第です。



交流会の冒頭で挨拶する金清典広(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長

観課 緑地環境室長が祝辞を述べた。発表と審査員の講評を行った。表彰式後には作品を囲み受賞者と審査員、学校関係者等との間で活発な交流が行われた。



交流会で作品について説明する受賞者

特集

第52回全国造園デザインコンクール 審査講評 入選作品

■入江 彰昭 委員長 ((公社) 日本造園学会理事、東京農業大学教授)

今年の応募数は627点と多数の応募があり、農業高校ばかりでなく工業や実業などの専門学科、普通科の高校からの作品もあり、すそ野が広がっていることを実感いたしました。これはひとえに生徒や学生と日々向き合っておられる先生方の熱心なご指導の賜物でありそのご尽力に敬意を表します。

今年はデザイン表現にとどまらず、コンセプトとともに場・空間・時間を語って伝えるストーリーテリングの手法を用いた作品が多くみられました。

例えば雨と晴、季節、年、未来、人生などの時間をデザインした作品、空間を積層化させ、場の利用を提案した作品、産学官民の連携、社会課題に対応した公園DXの作品などです。なかには庭園や公園の枠を超えて、都市や地域、社会の再デザインへ誘う提案がみられました。

若い皆さんが社会課題を発見しそれに対する解決策を考え、新たな価値を創造する力を育てていることに明るい未来を感じ大変勇気づけられました。

本コンクールが今後も皆さんのポジティブな学びの場となり、切磋琢磨を通じて造園への理解が深まることを強く願っております。

■吉田 幸人 委員 (文部科学省初等中等教育局 参事官 (高等学校担当) 付 産業教育振興室 教科調査官、国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 教育課程調査官)

今年度も、情熱を注いで制作された、素晴らしい作品の数々に出会うことができました。その中でも、学校全体で造園デザインに熱心に取り組まれ、多くの充実した作品をお寄せいただいた神奈川県立相原高等学校が、今年度の文部科学大臣賞を受賞されました。

受賞作品は、いずれもコンセプトが明確で、優れた技術力と豊かな表現力を備えています。また、社会的課題への深い理解と、時代が求める価値への応答がありながらも、高校生ならではの自由な発想と、目を見張るような創造性に満ちた作品でした。

各学校におかれましては、本コンクールを学びの成果を発表する貴重な機会として活用いただき、今後も基礎的・基本的な知識と技術、そして感性や表現力を一層磨かれ、これからの造園分野を力強く担っていく人材の育成に努められますことを期待しております。

来年度も、創造性あふれる作品に出会えることを、心よりご期待申し上げまして、講評とさせていただきます。

■望月 一彦 委員 (国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長)

入賞された皆様には心からお祝い申し上げます。今年も、社会課題の解決に資する造園空間をデザインした作品や、伝統的庭園技法を用いた実習作品など、多くの優れた作品を拝見する機会に恵まれました。持続可能な社会向け「緑」が持つ多様な機能が重要な役割を持つことの認識が、次代を担う学生の皆さんに浸透していることを実感した次第です。

国土交通大臣賞には、住宅庭園部門・高校生の部から、櫻井心捺さんの「めぐる庭」が選定されました。

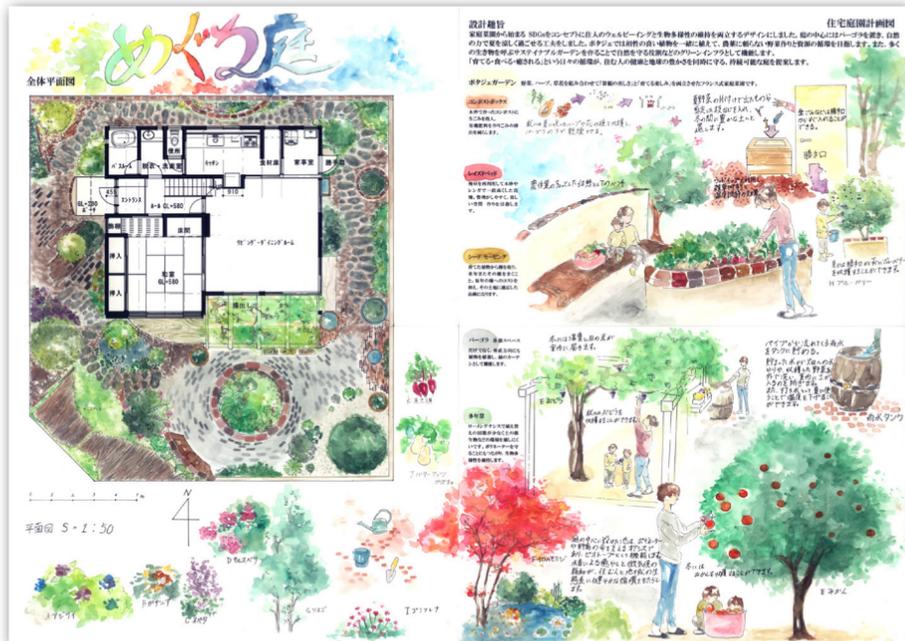
「めぐる」の言葉には、庭の鑑賞、庭の自然循環、菜園のある生活で住人が「育てる、食べる、癒される」循環という3つの意味を持たせ、SDGsやネイチャーポジティブを実現しようとする想いを込めた庭の提案です。水彩画による豊かな色彩と作画技術、見る人を惹きつけるわかりやすい表現力も大変優れており、総合的に最も優れた作品として評価されました。

次回も素晴らしい作品に出会えることを楽しみにしております。

■木下 剛 委員 ((公社) 日本造園学会理事、千葉大学大学院教授)

日本造園学会会長賞の二宮さんの作品は、都市公園をとりまく近年の状況「守る」から「活かす」への転換をふまえ、オープンスペース法という新たな法律を制定、産学民による新たな公園まちづくりの方法を提案するものです。

具体的には、まちづくりの社会実験を培養するスタジオ(園内)の設置を定めているほか、公園に参加と可変性を促す



国土交通大臣賞 めぐる庭 櫻井 心捺 神奈川県立相原高等学校

モバイルグリーン設備や、緊急時やイベント時に自家発電・蓄電できる路面式太陽光発電を提案しています。

また、公園の利活用に係る新たな財源確保の方法や、地域社会が公園を日常的に観察できるアプリを導入するなど、新しい技術が提案されています。

■伊藤 幸男 委員 ((一社) 日本造園建設業協会技術委員長)

今年度の日本造園建設業協会会長賞は、高校生の実習作品部門の中から野々村光翔さんグループの作品を選びました。岐阜の緑化フェアに携わったことを機会に地元地域との関連性を見つけ出し、それをテーマとした流木オブジェを組み込んだデザインアイデアは、とても良いアプローチです。

作品も草花や景石との配置バランスがよく考えられていてきれいに仕上がっています。また、それをグループのみなさんが力を合わせて施工している様子がわかる写真とともに、良いプレゼンボードとなっています。

■井野 貴文 委員 ((一社) ランドスケープコンサルタンツ協会技術委員)

今年は街区公園部門の応募数が昨年と比べて約50作品増えました。その中でも大学生より高校生の提案に、より魅力的なものが多かったことが印象的でした。激戦となった街区公園部門の中から、都市の目まぐるしい速度を和らげる都市装置となるユニークな提案であった「時を薄める」をCLA会長賞に選ばせていただきました。

本提案は人が本来持っている人間の感覚を取り戻していく場として、ランドスケープアーキテクチャの役割である「人」と「自然」の関係をデザインすることに取り組んだことが非常に共感しました。自然と対峙するという点でいえば豊島美術館は参考になるかもしれません。

■一ノ瀬 淳 委員 (全国農業高等学校長協会理事長 (東京都立園芸高校校長))

全国農業高等学校長協会理事長賞は、実習作品部門の埼玉県立秩父農工科学高等学校の「リサイクルファームひろば」となりました。こども園に隣接する、使われていなかった空き地を、「休憩場所・畑・堆肥場が一体となった魅力的な空間」へと再生した点が高く評価されました。

こども園の食べ残しや森の落ち葉を活用して腐葉土をつくり、野菜を育てる循環型の仕組みがよく工夫されています。また、休憩スペースや公民館との連携により、多世代交流や情操教育の場として地域に貢献している点も大きな特色です。さらに、限られた環境を有効に生かし、皆を笑顔にする場として、今後活用されることが期待されます。

■榎野 良明 委員 ((公財) 都市緑化機構専務理事)

本年も、緑化フェア「みどりの広場」プラン部門に、全国から273点もの作品をご応募いただき御礼申し上げます。

2026年9月18日から全国都市緑化フェア in 京都丹波が亀岡市、南丹市、京丹波町で開催されますが、本地域の歴史文化や自然を踏まえた作品が多く見られ



安齊 弦太 群馬県立勢多農林高等学校



今井 楓子 群馬県立勢多農林高等学校



榎田 芽生 神奈川県立相原高等学校



槇谷 ほのか 群馬県立藤岡北高等学校



佐藤 澄海 国立明石工業高等専門学校



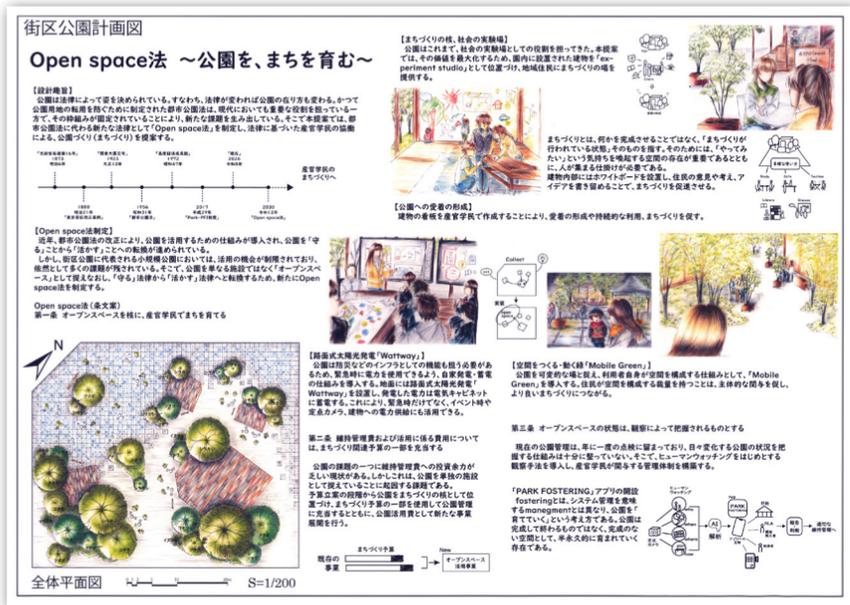
堀 玲那 愛知県立豊橋工科高等学校



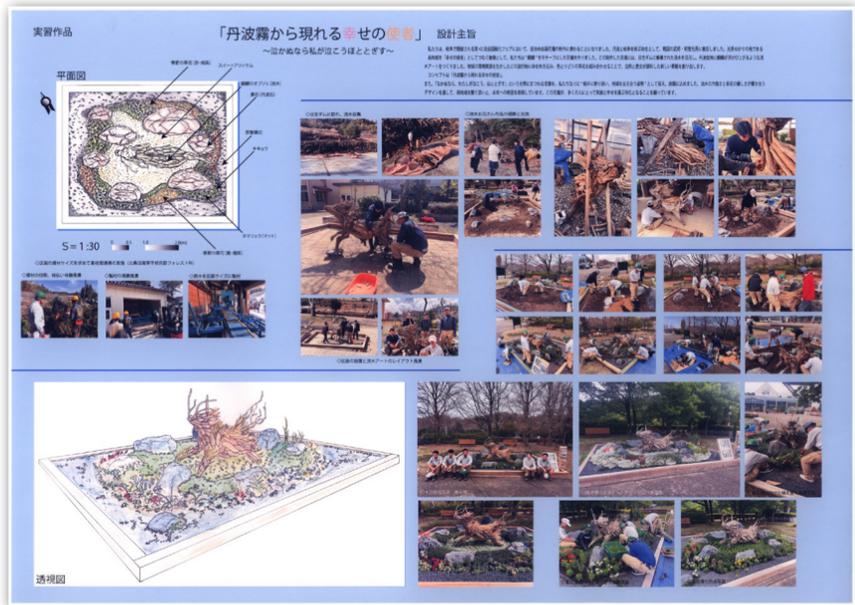
高橋 柚衣 群馬県立藤岡北高等学校



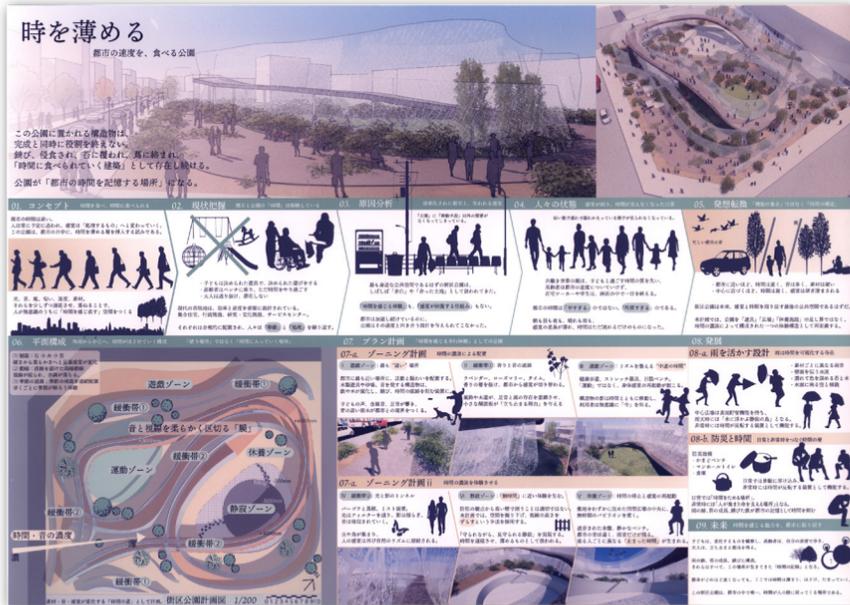
阿部 直立 三重県立四日市農芸高等学校



(公社) 日本造園学会会長賞 Open space法~公園を、まちを育む~ 二宮 恵美香 群馬県立藤岡北高等学校



(一社) 日本造園建設業協会会長賞 丹波霧から現れる幸せの使者 野々村 光翔 京都府立農芸高等学校



(一社) ランドスケープコンサルタンツ協会会長賞 時を薄める 都市の速度を、食べる公園 木田 琴奈 豊田工業高等専門学校



全国農業高等学校長協会理事長賞 リサイクルファームひろば 堀口 拳征 埼玉県立秩父農工科学高等学校

ました。高校生の皆様にフェア開催地のことを知っていただく良い機会になっていると存じます。

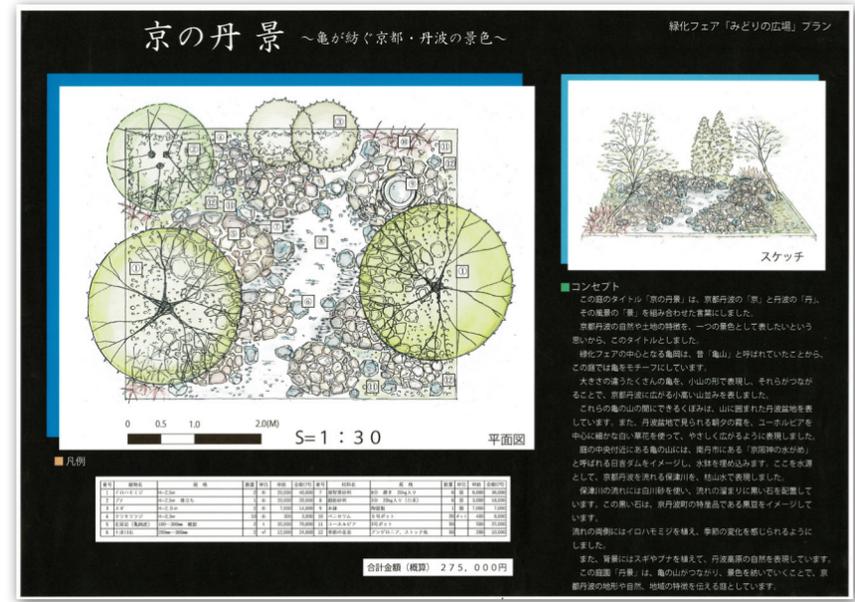
受賞された桐畑一希さんの作品「京の丹景~亀が紡ぐ京都・丹波の景色~」は、京都丹波の自然や土地の特徴の一つの景色として、亀岡の名に由来する亀をモチーフに表現したものであります。丹波盆地で見られる朝夕の霧を白花系の植物で表現する試み、保津川を白川砂で表現することなど造園材料にもこだわりつつ、地域の特徴を良く反映した作品となっています。

京都丹波地域の魅力を伝える本作品は、フェア会場においても注目されるものになると期待しています。

■正本 大 委員 ((一社) 日本造園建設業協会事業委員長)

今回も総数 600 を超える熱のある作品を応募いただきました。作者やご指導いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。皆様のアイデアや力を合わせた作庭に毎年感激しながら審査に臨んでいます。

自身のカラーを打ち出しながらも、時代の要請や未来に向かって託す思いを反映した作品を創り上げていくことが、造園デザインの魅力向上につながります。ネットの情報に頼るだけでなく、常にフィールドに出て、考えを巡らせるようにしてみてください。永い月日を経てその作品が地域の機能や美観を担い、顔となっていくようチャレンジを続けてもらえるよう願っています。



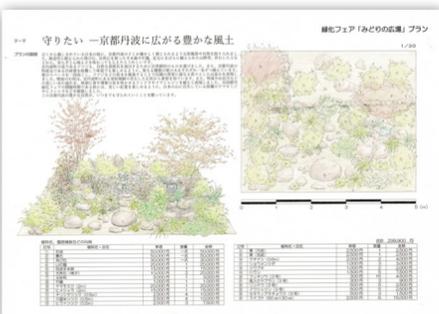
緑化フェア「みどりの広場」プラン賞 京の丹景 ~亀が紡ぐ京都・丹波の景色~ 桐畑 一希 京都府立農芸高等学校



長瀬 琉生 北海道岩見沢農業高等学校



川井 稜資 京都府立農芸高等学校



反町 恵永 神奈川県立相原高等学校



浅部 あゆみ 岡山県立陽陽高等学校 (教諭)



中村 華菜葉 大阪公立大学大学院



村上 凜夏 神戸大学



宮崎 優 京都大学



鶴飼 莉里 西日本短期大学

福岡県 邪馬台国への道、糸島へ

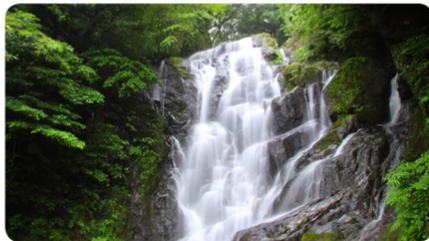


平原歴史公園コスモス

福岡市を西の方角へ車で40分程走ると自然豊かな山と海の恵みあふれる、糸島市へ到着します。今回は糸島市でよく知られている所、自慢できる所をご案内できればと思います。

まず糸島地方には歴史遺産とし

ての、前方後円墳が約60カ所もあり、伊都の都と呼ばれる古墳の中から初代伊都国王墓、幻の王墓、伊都国女王の墓と三つの王さまの墓が見つかりました。日本国の起源は糸島にあったのではないかと考えられています。出土品の多くが伊都国歴史博物館に展示され、



白糸の滝



雷山千如寺大悲王院の大楓



桜井二見ヶ浦

見学することができます。



伊都菜彩外観

す。



糸島カキ

春の行事として今年第15回となる糸島三都110キロウォークというものが、糸島一周56キロのコースを2周、112キロ、定員1,110人、制限時間28時間かけて回るもので、日本一過酷ですが挑戦する価値があると喜んで参加されています。(過去14回の平均完歩率48%)

糸島市には6つのゴルフ場があり、夏季には男子プロ1試合、女子プロ2試合の大会があり多くのゴルフファンの方が集まってきます。

九州大学も糸島の方へ移転してきたこともあり、今後伸びていく糸島を糸島の言葉で「一度見にきちってんしゃい。」

—ジャンジャン— きてネ。 福岡県支部 小笹 雅也(安藤造園土木株)

糸島の主な観光地としては、○白糸の滝○芥屋の大門○桜井二見ヶ浦(夫婦岩)○櫻井神社(重要文化財)○雷山千如寺大悲王院木造千手観音立像(重要文化財)などがあります。

市内には地元で採れたての野菜や果物、お米やお肉を販売しているお店や直売所がありますが、中でも有名なのがJA糸島産直市場です。伊都菜彩は売り上げ全国1位になったことが何度もあり、市外からも大勢の買い物客や参観者が来て賑わっています。一方、海の方では玄界灘に面した糸島は対馬海流の恩恵を受けており、天然真鯛の水揚げは全国トップクラスです。また、糸島を代表する海の味覚「糸島カキ」の生産量は年間600トンにも達しており、漁師直営のカキ小屋で海のミルクとよばれるほど濃厚な焼きカキ料理を食べることができま

UR 都市機構と技術意見交換会 現場代理人の抱える課題など説明



技術意見交換会の様子

UR都市機構と技術意見交換会を2月2日(月)に実施した。

日造協からは伊藤技術委員長と各副委員長、卯之原資格制度委員長らが出席し、URからは東日本都市再生本部の平井担当部長や東日本賃貸住宅本部の島田担当部長らに出席いただいた。

意見交換会は、造園工事の円滑な実施のため毎年1回実施しており、今回は、URから書類削減やクラウド化の取り組み、発注予定について、日造協からは協会の概要や造園ワークポジショニング作業、現場代理人の抱える課題について説明した後、工事費高騰の対応や応札参加

の判断基準、業務効率化、人材確保など幅広い内容について話し合った。

また、今回の意見交換会を踏まえ、現状取り組める内容から反映していただけることとなった。

なお、URから情報提供いただいた内容については、下記リンクの通りであり、いずれもUR都市機構のホームページ「入札・契約情報 <https://www.ur-net.go.jp/order/index.html>」(右のQRコード)から、最新の情報にアクセスできるので、ご確認ください。(下記参照)

UR都市機構のホームページ「入札・契約情報」(参考)

「UR工事の受注をお考えの皆様へ ～負担軽減等に資する取組～」 https://www.ur-net.go.jp/order/fehv9e000001gxp-att/futankeigen_torikumi_R7.1.pdf

「発注予定情報」 https://www.ur-net.go.jp/orders/east/pdf/order_43125_1.pdf

「中長期的な工事の見通しの公表について(令和7年7月15日時点)」 https://www.ur-net.go.jp/orders/east/pdf/order_42011_1.pdf



編集後記 桜のつぼみが膨らみ始める3月。春の訪れとともに悩まされるのが「花粉症」です。特に3月はスギ花粉がピークを迎える時期ですね。くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみ、とにかく辛い！私は処方薬の服用と併せて、鼻にワセリン塗って、さらに花粉ガードスプレーで対策しています。花粉症に負けず、春を乗り切りたいと思います！

緑滴

これからの北海道を盛り上げるのは、女子バレーボールだ！

北海道支部 岩見花



私は現在、女子プロバレーボールチームに所属しており、日中は仕事、夜は練習という日々を過ごしております。今回は私が所属しているバレーボールチーム「アルテミス北海道」について紹介します。

アルテミス北海道は、北海道を拠点に「地域に愛されるチーム」を目指して活動している女子バレーボールチームです。選手同士の仲が良く、明るく前向きな雰囲気が特徴で、試合では一人一人が最後まで諦めずにボールを追いかけて、チーム全体で流れをつかみにいくような熱いプレーが魅力です。

そんなチームの一員になったことは、私にとって大きな喜びです。

アルテミス北海道には、選手としても人としても成長できる場がいくつもあり、毎日の練習や仲間との時間がとても大切なものになっています。

仕事とバレーを続ける中で、どちらも自分を成長させてくれる場



アルテミス北海道 チームメンバー①

全力で打ち込む一球②



所だなと感じています。

練習で身につけた粘り強さや前向きさが仕事にも活かしていると思うし、逆に会社での経験がプレーの自信にもつながることもあります。

仕事とバレーの両立は決して楽ではありませんが、会社の方々の協力があり大好きなバレーボールができてことに一番に感謝し、アルテミス北海道を応援してくださっている皆さまにたくさんの勝利をお届けできるよう頑張っていきたいと思っています。

これからも感謝の気持ちを忘れず、仕事もバレーも自分らしく頑張っていきたいと思っています。

そして、ぜひアルテミス北海道の応援もしていただけると嬉しいです！

事務局の動き

- [3月] 3(水) 総務委員会(広報活動部会) 8(日) AIPHシドニーミーティング~12日(休) 10(水) 街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会(試験部会) 12(木) 資格制度委員会(全国) 13(金) 地域リーダーズ勉強会(群馬)~14日(出) 16(月) 街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会・AIPH横浜査察~17日(休) 19(木) 総務委員会(財政・運営部会) 23(月) 国際委員会 26(木) 運営会議・2027年国際園芸博覧会特別委員会 27(金) 総支部長等会議・第2回通常理事会・役員懇談会

- [4月] 7(水) 総務委員会(広報活動部会) 14(水) 植栽基盤診断士認定委員会 20(月) 技術委員会(安全部会) 23(木) 運営会議 29(水) 昭和100年記念式典

委員会等の活動

- 広報活動部会 2/3 2026年4月までの記事構成、全国造園フェスティバルツールについて審議 ●技術委員会(全国) 2/6 博覧会会場を視察/ 2/17 造園ワークポジショニング作業の講師養成研修会/ 2/28 技能グランプリに協力 ●事業委員会(全国) 2/10 2025年度の事業報告と2026年度の事業計画について審議し、市場単価や群マネなどについて意見交換 ●全国造園デザインコンクール等推進部会 2/21 表彰式と交流会を実施。合わせて来年度の実施に向けて検討 ●登録造園基幹技能者講習(試験委員会) 2/9 今年度実施した3会場の修了試験の採点と来年度の開催計画について審議 ●女性活躍推進部会 2/12 岐阜県立国際園芸アカデミー&加茂農林高校出前講座/ 2/16 岡山県立興陽高校出前講座/ 2/24 今期の事業計画と今後のスケジュールについて情報共有・審議 ●2027年国際園芸博覧会特別委員会 2/19 花と緑の共創推進会議に参加